

弓削皇子に献る歌三首

一七〇一番

さ夜中よなかと 夜よはふけぬらし 雁かりが音ねの 聞きこゆる  
空そらを 月渡つきわたる見みゆ

一七〇二番

妹いもがあたり 繁しげき雁かりが音ね 夕霧ゆふぎりに 来き鳴なきて過すぎ  
ぬ すべなきままでに

一七〇三番

雲くも隠かくり 雁かり鳴なく時ときは 秋山あきやまの 黄葉もみち片か待たま 時ときは  
過すぐれど